

このほんしる

ねんばん
5・6年版 No.208

ほん
おみせの本

エスリき にんじょうしょうてんがい
S力人情商店街1

れいじょう ひろこ / 作 おかもと まさき
令文 ヒロ子 / 岡本 正樹 / 絵 (岩崎書店)

ちゃこ ごろう けん よしの しおりき
茶子、吾郎、研、吉野は、塩力商店
街で育った幼なじみ。ある日4人は、
じんじや で
神社に出かけたのだが、そこでかみなり
が落ち、茶子がたおれてしまう。そして、
め さ ました茶子がお茶を飲もうとする
と、表面に人が動いているのが見えた。



しばらくして、お茶にうつっていた映像が現実^{えいぞう げんじつ}に起き
てしまう！どうやら茶子と3人の男子^{だんし}は、神社で不思議^{ふしぎ}
な力を授^{ちから さず}かったようだ。

でも、この力は商店街を救^{すく}うためにしか使^{つか}ってはいけ
ないらしい…。

きょうばし
京橋 (3543) 9025

ちゅうおうくりつ
中央区立 日本橋 (3669) 6207 図書館

つきしま
月島 (3532) 4391

●ホームページアドレス

<http://www.library.city.chuo.tokyo.jp/>

刊行物登録番号 24-005

うちはお人形の修理屋さん

ヨナ・ゼルディス・マクドノー／作 杉浦 さやか／絵
おびか ゆうこ／訳（徳間書店）

アナは三姉妹のまん中で9才の女の子。
家では、パパが人形の修理屋さんを開いて
います。アナ達は自分の人形を持つような
ぜいたくはできませんが、お店で預かって
いる人形に、それぞれお気に入りがありました。
そして、その人形たちで遊ぶのが、
三人の何よりの楽しみでした。

そんなある日、戦争が始まって、修理に
必要な材料が届かなくなってしまいます。お店を続けられなくな
ったパパを助けるために、アナが思いついたこととは…。



空へ、いのちのうたを

デボラ・ワイルズ／作 よねむら 知子／訳（ポプラ社）

スノーバーガー家は、一族で葬儀会社を
しています。10才のコンフォートも葬儀を
手伝っています。親友のデクラレーション
とも、彼女の母親の葬儀で知り合いました。

そんなある日、はじめてコンフォートに
家族の死が訪れます。亡くなった人をたく
さん見てきたので、死には慣れているつも
りでした。その気持ちを親友と分かちあえ
ていたはずでしたが、最近のデクラレーシ
ョンは少しきよりをおきたがっているみたい…。



トライフル・トライアングル

岡田 依世子／作 うめだ ゆみ／絵（新日本出版社）

小学六年生になったばかりの健と愛は、
双子なのに性格はまったくちがう。男の
子の健はビーズ織り作りにむちゅうで、
女の子の愛は柔道教室に通い練習にい
そがしい。

ある日、ふたりが住むマンションの一階
に、コーヒー専門店『カフェ・レインボー』
が開店。チラシを持ってあいさつに来たの
は、男の人みたいに背が高いかっこいい
女性だった。興味を持ったふたりは、両親が親せきの結婚式に出
かけた夜、こっそり店に行ってみることにした。



ママ・ショップ - 母親交換取次店 -

セシ・ジェンキンソン／著 斎藤静代／訳（主婦の友社）

オーリのママは、最強におそろしいマ
マ。みんなが見ているテレビ番組も見せ
てくれないし、すごく厳しい。そんなマ
マは「ママ・ショップ」で交かんしちゃ
えばいいんだ！

ロボットのマッチャーが、オーリの出
した条件にぴったりなママを、みちびき
だしてくれました。

新しいママを、むかえたオーリですが、
はたして完ぺきなママでしょうか。



ムカシのちょっといい未来

田部 智子 / 作 岡田 千晶 / 画 (福音館書店)

ぼくは、小村武蔵。あだなの『ムカシ』は、家が昔ながらのパン屋をやっていることからついた。人通りが少ない商店街にある店は地味で小さいし、パパが『おしんこパン』などとっぴょうしもないパンを作っているから、お客も近所のばあちゃんばかりだ。「ちょっとはオシャレなパンを作ればいいのに」と言っても、ぜんぜんとりあってくれない。

ところがある日、パパが作った変なパンが大人気に。



よるの美容院

市川 朔久子 / 著 (講談社)

まゆ子は、ある出来事をきっかけに、声が出なくなりました。そのせいで母親とギクシャクしてしまい、学校を休み、親せきのナオコ先生の家で暮らすことになった。そしてナオコ先生が営む『ひるま美容院』を手伝って過ごしている。

そんなまゆ子の楽しみは、閉店後の『よるの美容院』。ナオコ先生が、まゆ子のかみをていねいに洗って整えてくれるから。

美容院を手伝っていくうちに、閉ざされていたまゆ子の心が、やさしくほぐれていく。



つくろいものやはじめます -お江戸あやかし物語-

みずさわ いおり / 作 いしばし ふじこ / 絵 (偕成社)

『つくも神』を知っていますか？年をとりすぎた道具は、たましいが宿ってあやかしになる事があります。それがつくも神です。

江戸の町のかたすみにある、『つくろいもの屋こまち』は、そんなつくも神たちが始めたお店です。まち針のこまちねえさん、糸切りばさみのちょきち、ぬい針のぬいばあが、着物の仕立てからつくろいものまで、なんでもやってくれます。

しかし、あやかしが営むお店には、ふしぎなお客や事件がやってくるようで…。



うわさのズッコケ株式会社

なす まさもと まえかわ
那須 正幹／作 前川 かずお／絵（ポプラ社）

くがつ ながはの にちようび なかよ
九月なかばの日曜日、仲良しのハチベエ、ハカセ、モー
ちゃんは、よいつり場として有名な木材港にやってきた。
まいとし このしきに イワシのむれがくるので、港はつり客で
いっぱい。でもまわりにお店がなく、食べ物も飲み物も
か 買えなかった。

ハチベエが家でそのことを話すと、父ちゃんはジュー
スやべんとうを売ったらもうかるぞと言う。ハチベエは
はりきるが、しなもの しい お金が足りないので、
どうきゆうせい もとで か かんが
同級生たちから元手を借りることを考えた。

